第４回　町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の議事要旨

開催日時：平成 20 年 2 月 12 日(火) 19:00～21:10
開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室
参 加 者：　（委　員）梶山 正三[委員長]、小川 由一[副委員長]、関口 鉄夫[作業部会長]、
広瀬 立成、渋谷 謙三、粕谷 羊三、小山 宰正、新井 堅司、
塩路 正太、大垣 雅子、フォーク エリック、
小林 美知、木野 直美
（事務局）石阪 至孝、鈴木 和夫、内山 重雄、河西 秀悟、
山田 正孝、黒須 桂子、鶴長 文憲、斉藤 泰久、
日高 正人、田中 利和、寺田 悟
（傍聴者）５名

主な議事内容を以下に示す。

（１）　第 3 回検討委員会の議事要旨の確認について

事務局より第 3 回検討委員会の議事要旨の内容について説明を行い、了承された。

（２）　第 4 回作業部会の開催報告について

関口作業部会長より第 4 回作業部会の討議内容について報告を行った。（事務局による本年度の調査報告及び本年度のまとめの説明の補足として報告）

議事要旨に、「雨水調整池底質のダイオキシン類について、浚渫を行った後に再度分析を行い、原因を評価する」ことを追記するように指摘を受けた。

（３）　本年度の調査報告及び本年度のまとめについて

事務局より第 3 回検討委員会から追加した調査結果及び本年度のまとめについて説明を行い、概ね了承された。以下に、特記事項を記す。

＜本年度調査の報告＞

① 池の辺・峠谷埋立区の浸出水量は、試算値よりも実績値のほうが大きいことから、埋立地に降った雨水だけではなく、周辺からの表流水あるいは地下水が流入している可能性がある。また、峠谷埋立区の浸出水には、旧埋立地に降った雨水も含んでいると考えられる。

② 浸出水量調査で表面からの流入あるいは流出水量を実測することは困難である。

③ 今後は、埋立地周囲からの流入水を排除する等の対策を実施した際に、地下水の水質変化もモニタリングし、水収支の結果を補完していくことが必要である。

④ MB No.2 の水質は降雨による影響が見られることから、電気伝導率の高い地下水（廃棄物層の影響の可能性あり）あるいは放流路に流入する周辺雨水のどちらかの影響を受けている可能性があり、今後、モニタリング体制を強化して検討していくことが必要である。

＜評価の考え方＞

⑤　調査結果が環境基準等の法的基準以下であったとしても必ずしも安全とは断言できず、今後も、科学的なデータを収集し、公開した上で、地域住民による判断が必要ではないかという意見があった。

⑥　埋立ガスで一部基準値を超過しているが、地域住民としては、周辺大気への影響が心配である。

＜安定化の考え方＞

⑦　最終処分場の安定化促進及び周辺環境への影響の抑制の観点からは浸出水量を減少させることが基本である。そのためには、処分場への流入水を減少させる必要があるが、一方で、最終覆土・キャッピング等を実施すると浸出水の濃度が高くなる可能性がある。

⑧　本来、完全に安定化させるためには最終処分場の埋立廃棄物を撤去するしかないが莫大な費用を要するため、継続的なモニタリングと対策の実施により処分場による影響を最小限にコントロールできるようにして、処分場中の有害物質を少しずつ洗い出して、濃度を希釈して放流するという観点で安定化を図る必要がある。

⑨　処分場では、水とガスは同時に安定化する傾向があり、水質が改善すると基本的にはガスの発生も収まると考えられる。

⑩　本処分場による影響の危険性やその可能性を明らかにして、今後の方向性について、行政と地域住民が協議して検討委員会としての見解を示し、社会的合意を得ることが重要である。

＜本年度のまとめ＞

⑪　本年度のまとめの内容及び表現について概ね了承された。

⑫　現時点の調査結果では、環境基準等の法的基準をある程度満足しているが、必ずしも安全とは断言できず、また、処分場をすぐに廃止可能、跡地利用可能というわけでは無い。（第４回作業部会での協議を踏まえ、本年度のまとめの文言を修正している）

⑬　処分場の安定化を評価するうえでは、一部箇所でのダイオキシン類及び重金属類が今後の課題として残っている。（本年度のまとめにおける今後の課題として、その原因や対策の検討を盛り込んでいる）

（４）　今後の進め方及び次年度調査計画(案)について

今後の進め方、次年度の検討スケジュール、次年度調査計画(案)について、事務局より説明があり、概ね了承された。以下に特記事項を記す。

＜今後の進め方＞

①　最終覆土・雨水集排水溝整備・雨水調整池底泥浚渫等の基本計画を次年度検討し、その検討を踏まえて次年度予算化して次々年度に施工する予定である。

②　現在処分場の周辺で生活している地域住民への安全・安心のための対応策(例えばモニタリングや周知方法等)を検討することが優先ではないかとの意見があった。

＜検討会のあり方＞

③　本検討委員会の目的は、どのように処分場を安全に閉鎖及び廃止し、また安定化していくのかの方策について提言することである。

④ 処分場の今後の方向性を検討するにあたっては、検討委員会とは別途、市民としてのごみ減量化の取り組み等を含めて議論していくことが重要である。

＜次年度調査計画＞

⑤ MBNo.2 とは別に放流路水質の影響を受けていない地点にてボーリング調査を実施してはどうかという意見があったが、次年度調査では、まず広域的な井戸調査を実施して処分場の下流の地下水水質を把握することにする。

⑥ 次年度調査の詳細は委員長・作業部会長等と協議する。

（５） 住民報告会について

事務局より住民報告会の開催の趣旨及び概要について説明を行い、概ね了承された。

（６） その他報告事項

① どぜうの会が実施している周辺井戸の水質調査に関して、本検討委員会へのデータの提供及び新規のサンプリングについては井戸の所有者から了承が得られたとの報告があった。

② 調査地点については、委員長及び作業部会長等による協議の上、選定する。

（７） 今後のスケジュール

① 住民報告会は 2008 年 3 月 26 日(水)19 時から 21 時に開催する。

以上